



# 学校だより

令和7年度 3月発行  
学校法人松蔭学園  
松蔭大学附属  
松蔭高等学校

HP : <http://www.shoin.ed.jp/> Blog : <http://www.shoin.ed.jp/category/information/>

## 令和8年3月5日に卒業式が行われました

寒さの中にも少しずつ春の気配を感じる季節となりました。

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

これまでの学校生活で積み重ねてきた努力や思い出は、  
これからの人生の大きな力になることでしょう。

春は新しい出会いと挑戦の季節です。これから始まる新しい環境に、不安や戸惑いもあるかもしれませんが、自分らしさを大切にしながら一步一步前へ進んでいってください。  
みなさんのこれからの活躍を心から願っています。

母校はこれからもずっと、みなさんを応援しています。



## ☆3年生の各賞の受賞者☆

卒業式において、様々な方面の活動で、顕著な功績を残した人が表彰されます。(敬称省略)

学校長賞

3年1組 花田 佑芽

東京都知事賞

3年1組 花田 佑芽

東京都私学財団奨励賞

3年1組 村上 寛次郎

日本私立中学高等学校連合会賞

3年1組 杉浦 里菜

東京都高等学校体育連盟体育優良賞

3年1組 村上 寛次郎

東京都高等学校体育連盟体育優良賞

3年1組 浜田 優衣

東京都高等学校文化連盟文化活動優良賞

3年1組 長島 未空

東京都高等学校文化連盟文化活動優良賞

3年1組 宮武 笑子

東京私立中学高等学校協会第八支部体育優良賞

3年2組 上杉 快地

東京私立中学高等学校協会第八支部体育優良賞

3年2組 神村 織羽

東京私立中学高等学校協会第八支部生徒賞

3年1組 杉浦 里菜

東京私立中学高等学校協会第八支部生徒賞

3年2組 河野 壮志郎

東京私立中学高等学校協会第八支部生徒賞

3年2組 橋詰 絵美

東京都高等学校野球連盟賞

3年1組 新井 瑞己

## 送辞

冬の終わりを告げる春風が木々を騒がせ、桜の便りが待ち遠しい季節となりました。

本日、この松蔭大学附属松蔭高等学校を卒業される三年生のみなさん、

ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

高等学校で過ごした三年間は先輩方にとって、どのようなものでしたか。

思い出を振り返ってみると、先輩方と過ごした日々が、昨日のこのように思い出されます。

先輩方と初めてお会いした入学式。不安と緊張に包まれていた私たちを、

先輩方は温かく迎え入れてくださいました。学校生活が始まってからも、先輩方の頼もしく大きな背中に支えられながら、私たちは日々を過ごしてきました。先輩方が明るく優しく声をかけてくださったおかげで、私たちは安心して毎日を送ることができたのです。

初夏に行われた体育祭。赤組・白組ともに先輩方が中心となって、チームを盛り上げてくださり、私たちも学年を超えて一丸となることができました。特に記憶に残っているのは、先輩方の演技です。松蔭大学のグラウンドで、雲一つない真っ青な空の下、お揃いの青いTシャツを身にまとい、先輩たちは終始笑顔で演技を披露していました。創作ダンスだけでなく、息の合った連帯感に心から感動しました。私たちもこんな風に笑顔でポーズを決められたらいいな、と自分たちの一年後を思い描きました。

そして秋の文化祭。いつも先輩方の企画力の高さに、驚かされました。教室企画のアイスクリーム屋さんでは、教室の細かな装飾や、様々な衣装を着て楽しそうに接客をされていたことが、とても印象に残っています。また先輩方が私達の企画にも来てくださり、「楽しかったよ」と言ってくださったことが本当に嬉しかったです。

さらに、華やかなステージ企画にも圧倒されました。何よりも、楽しそうに堂々とステージに立つ姿や、客席から友達や後輩を応援する先輩方の姿には、元気と笑顔をもらい、心が温かくなりました。ステージの上の先輩方、それを応援する客席の先輩方、ともに輝いていました。

先輩方にはこれまで、たくさんの力をいただきましたが、私が一番支えられたのはやはり部活動です。私は中学まで運動部に入ることがなく、右も左もわからない状態での入部だったので、本当に不安でした。しかし、先輩方は優しく、丁寧に、ルールや動き方を教えてくださいました。そのおかげで、部活を続ける大きな原動力を得ることができました。私が試合でなかなか結果を出せず、伸び悩んでいた時、ただアドバイスをくださっただけでなく、「焦らなくてもいいよ」「頑張っているのはわかっているから」と、温か

い言葉をかけてくださいました。その言葉は、私にとって大きな力となり、心の支えとなりました。また、ペアを組んで試合に臨んだ際、ミスが続いて焦っていた私を、優しく励まし、落ち着かせてくださったことも忘れられません。先輩と一緒にプレーすることで、安心して自分の力を発揮できたことは、私にとって、かけがえのない経験でした。先輩の部活に対しての一生懸命な姿や前向きな姿勢は、私たち後輩の目には心強く、憧れの存在として写りました。そんな先輩を心から尊敬しています。

先輩方と過ごした月日はあっという間で、お別れがすぐそこまで来ているかと思うと、寂しく感じます。私たちも先輩方のように、後輩の模範となる頼もしい背中を見せられるよう、日々努力を重ねてまいります。

先輩方がこれから先、困難や苦難を感じ、前へ進めなくなってしまった時には、この松蔭高等学校で過ごした日々を思い出してください。三年間で得た経験や心強い仲間、先生方の支えがきっと力となり、前へ進む勇気を与えてくれるはずです。私達後輩は、明日から新しい道へと歩みを進める先輩方が、ずっと笑顔で前へ進んでいけることを心から願っています。

最後に、皆様方のご健勝と、より一層のご活躍を心よりお祈り申し上げまして、送辞とさせていただきます。

在校生代表 山崎 可南子



## 答辞

日差しが日一日と温かさを増し、教室の窓から見える風景にも春の気配を感じる季節となりました。この新たな門出の日に、私たち卒業生のためにこのような心温まる卒業式を挙げていただき、卒業生一同、心より感謝いたします。また、先生方をはじめ、ご来賓、ご家族の皆様、本日はご多忙の中ご臨席いただき、誠にありがとうございます。

令和五年四月、私たちは新しい制服に袖を通し、希望と不安を抱えながらも、この松蔭高校の第一歩を力強く踏み出しました。最初の学校行事である体育祭では、勝ち負け以上に、仲間と声を掛け合い、全力で応援することの大切さを学びました。思うようにいかないことがあっても、誰かの声がか力になり、学年が一つになる瞬間を、私たちは体育祭や球技大会などで何度も経験しました。夏休みの軽井沢 林間学校は、五泊六日という初めての長い宿泊行事でした。慣れない環境の中で協力し合い、語り合い、笑い合った時間は、「同級生」が

「仲間」へと変わった大切なきっかけだったと思っています。文化祭では、学年全員で一つのものを作り上げる喜びを知りました。準備の大変さも、当日の達成感も、すべてかけがえない思い出です。私たちの学年は有志で舞台出演に挑戦する人が多く、拍手と笑顔に包まれたあの瞬間は、今でも胸に残っています。二年生になって行(い)った修学旅行では、色々な場所を巡りましたが広島で原爆ドームや資料館を見たときの衝撃は忘れられません。戦争を経験していない私(わたくし)たちが、当時のことを本当に理解するのは難しいと思います。それでも、展示物の一つ一つに真剣に向き合い、平和を守っていく責任の重さを痛感している同級生の姿を見て、私(わたくし)は涙をこぼしてしまいました。こんなに素敵な同級生と出会えて本当に幸せだなと思ったからです。原爆で多くのものを失ってしまった戦争の悲惨さを胸に刻むとともに仲間と過ごす時間の尊さに気づかされました。

そしていよいよ三年生になり、高校最後の年、受験という大きな試練が待っていました。そんな中でも、私(わたくし)たちは全力で行事に臨みました。五月の体育祭では円陣を組んで、心をあわせて踊ったダンス。「10時の方角」というタイトルの曲で踊りました。12時の方向が「まっすぐ」や「王道」だとすれば、10時は斜めの方角です。これは「最短距離ではなく、自分の信じた道を進もう」という意味があると知りました。人生には、効率や合理性を求められる局面が多く存在しますが、それが常に正解とは限りません。自分だけの価値観や理想を大切にしながら歩む道は、遠回りに見えても、実は一番納得のいくゴールへと繋がっているかもしれないのです。「間違っていていい、自分で選んで、進めばいい」そんな優しくも力強いメッセージに背中を押され、私たちは進路を決めたのです。この曲を選んでくださった体育科の原田先生、佐野先生、ありがとうございました。

そしていよいよ試練と未来が詰まった受験の季節がやってきました。不安や焦りに押しつぶされそうになった日もありました。そんな時、先生方が親身になって相談に乗ってくださり、最後の最後まで寄り添い、支えてくださったこと、とても感謝しています。そして、これまで育ててくれたお父さん、お母さん、お兄ちゃん。思春期の私はなかなか素直になれず、私のことを思ってくれた言葉も、なかなか受け入れることができませんでした。特に三年生になってからは、進路を決めなければならないこともあって、話し合いの中で陰湿な雰囲気になってしまったこともありました。それでも、どんな時も私を励まし、寄り添い、不安を和らげてくれる、その温かさが本当に嬉しくて、ありがたかったです。私はだんだん自立していき、いつか親元を離れていきますが、それまでもう少しお世話になります。

そして、誰にとっても高校生活を語る上で欠かせないのは部活動です。私が所属していたテニス部は同級生、後輩や顧問の先生に恵まれました。部活のみんなで遊んだ日は、とても嬉しくて本当に楽しかったです。精神的に疲れてしまった時も部活で後輩のエネルギーに癒されて何度も助けられました。また、私はこの学校生活の中で「知行合一」という言葉の本当の意味を学びました。頭では分かっている不安や迷いが伴い、行動に移すことは簡単ではありません。

しかし、生徒会長への立候補やスピーチコンテストの挑戦など勇気を出して一步を踏み出した経験を通して、考えるだけで終わらず、行動してこそ学びは生きて自分の力になるということを実感しました。知っているだけではなく、行動することの大切さを教えてくださったのは、先生方でした。在校生の皆さんには、この学校で学ぶ「知行合一」の精神をぜひ大切にしてほしいと思います。これからの学校生活の中で、迷うことや立ち止まりたくなることがあるかもしれません。そんなときは、自分を信じ、勇気を出して、時には先生方を頼って、一步を踏み出してみてください。行動することでしか見ることのできない景色が、きっとあります。皆さんのこれからの挑戦を、私たちは心から応援しています。私(わたくし)が松蔭高校に入学して八十四期のみなどと楽しく有意義な時間を過ごせたのは、自分のことだけを考えるのではなく、相手を思いやって行動することができるみんなと過ごせたからです。

そして、球技大会で生徒を応援しすぎて、肩を痛めた学年主任の岩井先生。勉強合宿で頑張っている私たちのためにわざわざプリンの差し入れをしに軽井沢まで来てくださった一組担任の大和田先生。常に生徒が楽しい時間を過ごせるように色々な企画を立ててくださった二組担任の寺口先生。学年チューターの楠生先生、板橋先生、佐野先生、それから教科を担当してくださったたくさんの先生方。いつも温かな指導をしてくださいました。先生方のように、私たち一人ひとりに家族のように寄り添い、ここまで親身に向き合ってください先生方は、他校には滅多にいないと誇りを持って言えます。私たちが迷ったときには道を示し、挑戦する時には暖かいまなざしで見守ってくださった先生方に深く感謝申し上げます。新たな出会いの中、辛いことや苦しかったこともあったけれど、それ以上に楽しかったこと、充実していた毎日を経験させてくださった松蔭高校に本当に感謝しています。ありがとうございました。私たちはたくさんの優しさに支えられ、この卒業の日を迎えることができました。私たちの学年は人数の少ない学年でした。

しかし、その分ひとり一人の存在が大きく、互いの存在を近くに感じ、思いやりながら三年間を歩んでくることができました。これから皆と何気ない会話も交わせなくなるのがとてもさみしいですが、「十時の方角」に向けて一步一步胸を張って色々なことに挑戦をして突き進んで行きたいと思います。最高の青春をありがとう！みんな、頑張ろうね！最後になりましたが、松蔭高校への心からの感謝を捧げるとともに、更なるご発展をお祈り申し上げます、卒業生を代表し、私の答辞といたします。

卒業生代表 杉浦里菜





## 探究学習発表会



7月から準備を進めてきた探究学習の発表会を3月21日に行いました。1年生はグループで「SDGSの達成に近づくプロジェクトを提案する」を課題に、ポスター展示でプレゼンテーションをしました。2年生は各班が自由に決めたテーマを、パワーポイントを用いたプレゼンテーションで発表しました。当日、1年生は「A:実現可能性」「B:社会貢献性」「C:独創性」「D:プレゼンテーションの完成度」、2年生は「A:信頼性」「B:社会貢献性」「C:独創性」「D:プレゼンテーションの完成度」の4項目を評価基準として投票しました。ご来校いただいた保護者の方々、ありがとうございました。

### 探究学習発表会結果

【2年の部】

優勝

**NEO 松下村塾**

アンケートにご協力いただきました池ノ上小学校4, 5, 6年生のみなさん、  
おかげさまで優勝できました!ありがとうございました!

準優勝

**嵐を呼ぶ!未来の防衛食だゾ♡**

【1年の部】

優勝

**ゴミですが、何か?**

準優勝

**アップルパイ計画**